

ホームページ（HP）やチラシ制作、デザイン業務などを手掛けるRefu（リフ、緑区橋本）は、コロナ禍の最中の2022年4月に創業し、現在3期目に入っています。IT企業は、インターネットを通じて地域を問わず取引先を開拓できることから、地域とは疎遠になりがちです。ところが同社はあえて地元とのつながりをつくらうと、ビジネス交流会へ参加したことがきっかけで当所に入会。地域貢献にも取り組んでいます。今年から青年部の拡大・広報委員会の副委員長も務める、平井翔社長にインタビューしました。

「コロナ禍の最中に起業されたそうですね。」

「もともと、静岡県出身で都内の金融機関を経て起業し、相模原に事務所を構えたのは偶然です。妻の実家が京王相模原線・南大沢駅近くにあり、そこから近い橋本のシェアオフィスで創業しました。間もなく、手狭になった事務所から移転したのが現在のオフィスです」

「これまでは一般的に正社員として働くことが当たり前でしたが、コロナ禍をきっかけにフリーランスで働く人が増えました。特にHP制作などのクリエイティブ職では、働き方の変化が顕著だと感じ、そこに対してアプローチできるような会社を作りたいというのが起業のきっかけです」

「青年部の拡大・広報委員会副委員長のほか、「さみがみはらフェスタ2024」でも広報部長としても活躍されました。」

「フェスタの広報では、5人の担当で活動しました。私が全体的に見させてもらい、制作でいうディレクションのよう

な役割を担当しました。加えてSNSやポスターなどのデザインを手掛ける人や、SNSでの情報発信業務をメインでやる人、プレスリリースなどの文章を書く人もいました。さらに、協賛や広報の協力を得るために、ショッピングモールなど商業施設の新規開拓を担当する人もいました」

「大変、力を入れられましたね。」

「今年が市制70周年の記念の年です。」

## ウェブ制作で相模原に活力を

### ITで地域活性化に貢献

（株）Refu  
代表取締役社長（CEO）  
**平井翔さん**

例年、フェスタは週末の2日間で行われていましたが、今回は史上初となる3日間の連続開催となりました。これに伴い、来場者数も昨年の実績である2日間累計5万6000人に対して、3日間で累計10万人を目標に掲げました。改めて、さ

がみはらフェスタを広く市民に知ってもらい、多くの人に来てもらいたい。その思いで広報活動に力を入れました」

「今後の事業展開について教えてください。」

「せっかく相模原に事業所を構えてい



ますので、地域に何かを残すことが大切ではないかと思っています。当社の顧客は全国にいます。相模原の顧客はそう多い訳ではありません。ですが、従業員が増えており、市の財政にも貢献できる面があります。当社が大きくなれば、雇用創出や税収といった面で、微力ながら市にも貢献できると考えています。また、見方を変えれば、相模原にある当社に人が集まってくれば、全国各地のお客様と仕事ができるという発想にもつながっていくと思います」